



言いたい放題？の次期衆院選の行方...？

西区支部 景山正之

皆さんこんにちは。はじめにお断りとお願いですが、今回あくまでも私の個人的見解に基づいた非常に偏った考えから言いたい放題を書かせていただいたものでございます。私の文章から不快な気分や反論など持たれる方もおられることと思いますが一個人の極端な偏見です。何卒御容赦の程お願い致します。

2009年8月の衆議院選挙で民主党が大勝し、歴史的政権交代を果たし、鳩山由紀夫総理大臣が誕生しました。しかし、その後の政局はひたすら混迷を極め、政策は遅々として進まず、自身の政治資金問題、そして米軍普天間基地の移設問題で大失態をしてしまった鳩山総理は「政治と金問題」での説明責任を果たさずに、逃げて逃げまくっていた当時の小沢一郎幹事長を道連れに、わずか8ヶ月で辞任しました。米国のオバマ大統領との会談時には「Trust me!」なんて言っていたくせに?...その直後、「はいはい!」と間髪入れずに手を挙げて(あくまで

私の個人的印象です...)94代総理大臣に就任したのは菅直人氏でありました。しかし、国民の支持を得るために掲げた、いわゆる国民の超嫌われ者である小沢一郎氏を排除した「脱小沢」組閣人事は2010年7月に行われた参議院選挙の大敗を機に、最近は一さっぱり目立たない谷亮子議員を有する与党内のいわゆる「小沢グループ」の猛バッシングを受けて、更には内閣不信任決議案まで飛び出して与党崩壊寸前となり、菅政権は1年2ヶ月で幕を閉じました。

そして、現在は野田佳彦氏が第95代内閣総理大臣に任命され2011年9月2日より今日に至っております。この間、東日本大震災と原発事故という大変な大惨事が起こり、震災の復興が最優先であるために状況が一変したのは理解できます。そのような状況も鑑みて「民主党マニフェスト2009」はどれほど達成されているのか。以下、目玉政策を列挙してみましたのでお時間のある方は評価してみてください。

民主党の5つの約束

1	ムダづかい	国の総予算207兆円を全面組み替え。 税金のムダづかいと天下りを根絶します。 議員の世襲と企業団体献金は廃止し、衆院定数を80削減します。
2	子育て教育	中学卒業まで、1人当たり年31万2,000円の「子ども手当」を支給します。 高校は実質無償化し、大学は奨学金を大幅に拡充します。
3	年金医療	「年金通帳」で消えない年金。 年金制度を一元化し、月額7万円の最低保障年金を実現します。 後期高齢者医療制度を廃止し、医師の数を1.5倍にします。
4	地域主権	「地域主権」を確立し、第一歩として、地方の自主財源を大幅に増やします。 農業の戸別所得補償制度を創設。 高速道路の無料化、郵政事業の抜本見直しで地域を元気にします。
5	雇用経済	中小企業の法人税率を11%に引き下げます。 月額10万円の手当つき職業訓練制度により、求職者を支援します。 地球温暖化対策を強力に推進し、新産業を育てます。

そして、私共が気になるのは何と言いましても医療政策のほうは如何なものかということでしょうか。

歴史的政権交代後に行われました日本医師会の会長選では必然にも？都市医師会では真っ先に民主党支持を打ち出した茨城県医師会の原中勝征氏が当時現職であった唐澤祥人氏を破って日本医師会長になりました。その後、2010年4月に行われた診療報酬改定時、この時は10年ぶりのプラス改定となり当時の長妻昭厚生労働相

は「医療再生には、ネット（全体）でのプラス改定が必要だと申し上げてきた。2010年は実に10年ぶりのプラス改定になる」と胸を張っておりましたが、実態はほぼゼロ改定ということもあり、原中会長からは「もっと診療報酬を引き上げないとダメだ。今回はマイナス改定こそ回避したが、相変わらず診療所のカネを病院に回そうとしている」という苦言でした。

以下マニフェスト（年金・医療）の部分から抜粋してみました。

マニフェスト政策各論 (3.年金・医療より抜粋)	
3 - 21	後期高齢者医療制度を廃止し、国民皆保険を守る
3 - 22	医療崩壊を食い止め、国民に質の高い医療サービスを提供する
3 - 23	新型インフルエンザ等への万全の対応
3 - 24	被爆者を援護する
3 - 25	介護労働者の賃金を月額4万円引き上げる
3 - 26	「障害者自立支援法」を廃止して、障害者福祉制度を抜本的に見直す

さて、皆さんの評価の程は如何なものでしょうか。最近の報道などでは「マニフェスト総崩れ」などといった報道も目にし、とある大臣達の失言や失態などの報道がやけに目立つように感じているのは私だけでしょうか。

衆参のいわゆる「ねじれ状態」が起きている理由はふがない政党には断じて「No!」を突き付ける国民の意思そのものの表れと感じています。野党（特に自民党？）は衆議院解散に追い込むために「与党批判」を繰り返しておりますが、泣いても笑っても2013年8月には任期満了に伴い衆議院は解散し総選挙が行われます。いずれにしても国民に対して不誠実な政党は政権与党にはならないでしょう。

そんな折、2012年の4月にまた診療報酬の改定が行われます。前回診療報酬改定時の厚生労働大臣であった長妻氏は、野党時代は「ミスター年金」などと呼ばれて脚光を浴びておりましたが、大臣になってからは歯切れの悪い慎重な発言が多くなり、「ミスター検討中」などとあ

だ名も変わってしまい、更には官僚との相互不信が致命傷となり当時の菅改造内閣発足をもって民主党の筆頭副幹事長に異例の降格を喫してしまいました。厚生労働大臣は小宮山洋子氏に代わっておりますが、「プラス改定で医師を後押ししてこそ政治だ」などと有り難い発言などをしていただいた結果、今回は何とネットプラス0.004%増で決着していただきました。私、個人的には「0.00...」ではありますが、日本医師会の原中会長は「財政難や東日本大震災の発生もあり、大幅なアップは無理だろうと思っていたが、（プラスが）ほんのわずかであっても民主党、政府が地域医療の崩壊を少しでも直そうという気持ちの表れであった。大変感謝している」と述べられており、更には「今後とも共通の認識がある限り、一緒にやっていきたい」と日本医師会の立場としては現時点においては好意的な印象のようです。

今時期は年度前のこともあり、いろいろなことが流動的ですが、私個人としましては次期衆

院選まであと1年と少々。現在政権与党の民主党は当初「4年間でマニフェストを実行します」とも言っておりました。今度は各政党がど

のようなマニフェストを作成するのかな。などと思いながら過ごしております。

(鉄工団地診療所)